

平成 27 年度おおさか環境にやさしい建築賞 審査講評 (大阪府建築物環境配慮制度に関する検討会)

【総 評】  
座長 山 中 俊 夫

今回の表彰は、大阪府温暖化の防止等に関する条例に基づく届出があり、平成 26 年度中に竣工した建築物のうち、一定の評価基準を満たし、かつ、応募のあったもののなかから書類及び現地における審査により厳正に評価し、最終的に知事賞 1 件、事務所部門賞 1 件及び商業施設その他部門賞 2 件を決定した。応募された建築物は、用途が病院、博物館、倉庫、研究施設など多様であるが、いずれの建物においても、それぞれの立地条件や建築用途の特性を踏まえ、既存樹木の活用・緑化、再生可能エネルギー利用設備・省エネルギー設備の導入等、環境に配慮した取り組みが積極的に行われていた。これらの中で、四点の応募が選ばれることとなったが、知事賞の病院は要求される機能と環境配慮が高度に統合された特筆すべき計画であり、部門賞もそれぞれに特徴のある優れた計画であった。この度選ばれた建築物が、今後の模範となり、より環境配慮に優れた建築物の普及につながることを期待するものである。なお、惜しくも選外となった建築物についても環境配慮への積極的な取り組みは評価に値し、その努力に感謝の意を表す。

【大阪府知事賞】

**ベルランド総合病院**  
「笑顔が生まれる環境を整える」をコンセプトに、堺市保存樹林に指定された「ベルの森」を活かした療養のための建築に環境配慮の手法を取り込むことで、人の自然治癒力を引き出す環境を整えることを目指した建築である。様々な省エネ技術や工夫により環境負荷を小さくするとともに、室内の快適性の維持・向上に取り組み、大規模病院に要求される色々な機能を知的に統合している。また、病室からも視認可能な屋上庭園を複数設け、閉鎖的になりがちな室内空間に眺望と採光と屋外空間を提供して、来院者・入院患者に対しても癒しの効果があると思われる。さらに、日射遮蔽機能を有するバルコニー、高機能の窓、LED の採用、BEMS の導入による低炭素化への取り組みが高く評価される。一方、全周のバルコニー配置をはじめとする防災機能の確保についても配慮された優れた建築である。

【事務所部門賞】

**さかい利晶の杜**  
地球環境に配慮しながら賑わいを生み出す文化観光拠点の施設として堺市が企画した公共建築である。延べ床 3400㎡と比較的小規模な博物館であるが、意匠設計と環境設備のバランスが極めて良い。ガラス外壁の観光案内展示室にはダブルスキンが採用されており、外気の空調利用、断熱・遮熱が図られている。収蔵庫等については、外部との緩衝空間を設けた二重構造により、空調負荷低減が図られ、調湿にも配慮されているのが特徴的である。また、コンコースの自然換気・ナイトパージ、クール・ヒートチューブ、ルーバー屋根などのパッシブ制御技術も多く採用されており、優れたサステナブル建築といえる。地域の植生を考慮した植樹がなされていることも評価できるものであり、樹木の成長が待たれる。

【商業施設  
その他部門賞】  
(50 音順)

**国立研究開発法人 産業技術総合研究所 関西センター C-6 棟**  
フレキシビリティを備え、常に最先端の研究プロジェクトに対応できる低環境負荷型建築の実現を目指した研究施設である。設備変更の要求に柔軟に対応でき、メンテナンスに対しても配慮された洗練されたラボとなっており、設計のコンセプトが明快である。既存樹木を活かす建物の配慮計画により、開口部の配置に工夫が見られ、自然光が積極的に利用されている。建築物の機能性を高めながらも、周辺環境を良好に保っている。また、メンテナンスバルコニーによる日射遮蔽、クールピットを用いた地中熱利用、太陽光パネルの設置など再生エネルギーの活用や雨水利用も図られている。

**三井不動産ロジスティクスパーク堺 (MFLP 堺)**  
都市と繋がる環境に配慮した先進的な物流施設として計画された建築物である。免震構造などによる鋼材使用量削減、グリーン購入法適合品の高炉セメント、残土場外処分ゼロなど、建築材料について地球環境への負荷を抑えた点が高く評価される。7680 枚の太陽光パネルは圧巻であり、二酸化炭素の削減に寄与するとともに、発電効果を建物内に設置された数力所のモニターに表示し、「見える化」している。また一方で非常時に対応したインフラ設備や既存樹木の活用、テナントのニーズに合わせた内部設備の容易な変更が可能な設計とするなど、物流施設として非常に高い環境性能を有している。

平成 27 年度大阪府建築物環境配慮制度に関する検討会 委員名簿 (50 音順)

小池 志 保 子・大阪市立大学大学院生活科学研究科 准教授  
山 中 俊 夫・大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 教授 (※座長)  
吉 田 篤 正・大阪府立大学大学院工学研究科機械系専攻 教授

平成 27 年度おおさか環境にやさしい建築賞 審査講評 (大阪市建築物環境配慮推進委員会)

【総 評】  
委員長 岩 前 篤

本年度から、名称は「おおさか環境にやさしい建築表彰」に変わったが、審査の内容としては、これまで同様、CASBEE 届出内容に基づいて挙げられた候補、それぞれが持つ建築的特殊性と、環境に対する配慮として実現された様々な取り組みを厳正に評価した。本年度は昨年のような大規模な建築物候補は少なくなったが、全体に建築的環境配慮の取り組みのレベルが高くなった印象を受けた。今年、惜しくも選に漏れたマンションや事業所ビルは、昨年であれば賞が得られたと思われる。そのような中で最優秀となった事業所ビルは、様々な建築設備機器の導入に加え、壁面緑化とダブルスキンの組み合わせにより、建物内外の景観を新たに創造するなど、建築的な工夫で素晴らしい空間を実現されていた。候補対象の設計・施工社にやや偏りが見られることが、さらなる普及展開の上では気になる点ではあるが、年々、レベルが高くなることが大阪という街の地力になると思われる。今後、環境配慮を通じた優れた建築物がより一層増加することを望む。

【大阪市長賞】

**YANMAR FLYING-Y BUILDING**  
コージェネレーションや高効率ガスヒートポンプエアコン、バイオディーゼル発電などの様々な設備が備えられるとともに、自然換気、自然採光の導入をはじめ多くの建築的な工夫もなされている。また、水平ルーバーに植栽した壁面緑化を屋外からのみならず建物内のエレベーターからも見るができるようにしたり、ホームページにリアルタイムの CO<sub>2</sub> 削減状況を表示するなど、環境配慮の取組の見える化も行われている。独特の建物の形状は所在地である梅田の街のアクティブさにマッチしており、地域の活動であるミツバチプロジェクトへ参画するなど、周囲との調和が図られている。様々な独創的な取組がなされている点や、Zero CO<sub>2</sub>-Emission Building を明確に打ち出している取組姿勢などを高く評価し、最優秀賞である大阪市長賞に相応しいと判断した。

【住宅部門賞】

**大阪ひびきの街 ザ・サンクタスタワー**  
太陽光発電設備や、地中熱を利用した共用廊下への給気、雨水利用など、様々な取組が行われている。また、立体駐車場を中央部に配した制振システムや、非常時にコンセント等が使用できる防災ポイントを設置するなど、災害時対策がなされている。緑地率 30%以上の植栽や、低層部のファサードを隣接する劇場の外観と調和させるなど、周囲の環境や景観へ配慮されている。建物の計画当初から建築主が CASBEE S ランク取得を目指した姿勢は他の規範となり得る。

【事務所部門賞】  
(50 音順)

**新ダイビル**  
オフィスフロアでは、アウトフレーム構造により柱を室外へ排除する平面計画や、深い庇によって日射の抑制を図るなど、使いやすさを十分に考慮しつつ環境配慮を行う姿勢がうかがえる。外構においては、旧ビルの屋上庭園から樹木を移植するなど、緑化の継承として都心部に約 1,000 坪の緑豊かな地上緑化を整備しており、近隣の憩いの場となっている。旧ビルの外観や庭園の継承と環境への意識が全体計画に反映されている。

**日本生命保険相互会社 東館**  
事務室内には、小型 LED 照明器具を多数配置した独自の照明設備や、天井全面に放射と微気流を組み合わせた天井パネルを設置する空調などの工夫により、作業性、快適性の確保と省エネを両立させている。外構においては、建物の周囲に緑道を形成し近隣の歴史的建造物と連携して、地域の街並みと環境に対して責任を持つという積極的な姿勢がうかがえる。また、屋上緑化で栽培した芋を職員に配るといふ温かみがある取組も行われている。

【商業施設  
その他部門賞】

**hu+gMUSEUM (ハグミュージアム)**  
岩崎地区スマートエネルギーネットワークを構築するコージェネレーションを設置しており、地区内に熱と電気を融通し地区全体の省エネを目指したエネルギー計画が立てられている。ウォールダクトや壁面の木製ルーバー、壁面緑化など周囲の環境や景観への配慮がなされている。また、屋上に設けられた水田や畑を近隣の小学生の環境教育の場とする取組や、大阪ガス発祥の地という歴史性の継承を表現する建物設計に、周辺地区に対する積極的な取り組み姿勢が現れている。

平成 27 年度大阪市建築物環境配慮推進委員会 委員名簿 (50 音順)

岩 前 篤・近畿大学建築学部 学部長・教授 (※委員長)  
大 久 保 規 子・大阪大学大学院法学研究科法学・政治学専攻 教授  
田 中 み さ 子・大阪産業大学人間環境学部生活環境学科 准教授  
西 岡 真 稔・大阪市立大学大学院工学研究科都市系専攻 教授  
福 田 知 弘・大阪大学大学院工学研究科環境・エネルギー工学科 准教授